マイコミジャーナル

知りたい! を刺激する総合専門サイト

【インタビュー】

不要犬・ネコ回収車にゴミのように捨てられ… - ペット大国日本が抱える"闇"

金子えみ 2011/01/28

昨年12月、東京・千代田区で「動物愛護法改正に向けて! 」と題したシンポジウムが開かれた。女優の浅田美代子さんや元国会議員の藤野真紀子さんもパネリストとして登壇。ペットをめぐる現状に憤りの声を挙げ、法律改正の必要性を熱く訴えた。ペット大国・日本でいま、どんな問題が起きているのか。シンポジウムを主催した日本動物虐待防止協会代表で放送作家の藤村晃子さんに聞いた。

1年間に殺処分される犬は8万頭以上

——12月のシンポジウムでは犬の殺処分についての問題も議論されました。日本ではいまどれくらいの犬が殺処分されているのですか?

環境省の2008年度のデータによると「愛護センター」や「動物指導センター」などに収容された犬は年間9万810頭、そのうち8万2,464頭が殺処分されています。迷い犬のほか、飼い主から処分依頼されて殺処分される犬もかなりの数に上っているようです。

日本動物虐待防止協会の藤村晃子さん

——飼い主からの処分依頼とは……。そんなことが簡単にできる仕組みなのですか?

「鳴き声がうるさい」「引っ越しするので飼えなくなった」「病気になった」といった理由でも、法律上引き取らざるを得ない自治体が多いですね。

「不要犬・ネコ回収車」に捨てられた犬は泣き叫びながら死んでいく

——12月のシンポジウムでは、藤村さん自身が捨てられる命の現状を追ったドキュメンタリー『最後の瞳』の上映もありました。飼えなくなったペットを回収する「不要犬・猫回収車」に同行し取材されたものですが、私自身はこうした「回収車」の存在も知らなかったので驚きました。

こうした回収車は、保健所まで車で何時間もかかるような広域な県などに多いですね。自治体から委託された業者が定期的に指定場所を周り、「飼えなくなった」ペットを回収しています。私が取材した地域では、週に1、2回、きょうは何市、あすは何市という具合に回っていました。ゴミのように箱やケージに放り込まれ回収されていく犬やネコをみているとやり切れ